

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 7	提案機関名 全農神奈川県本部 農産部
要望問題名 キタアカリの秋作栽培について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 秋作馬鈴薯栽培では、主に長崎県産のデジマ・ニシユタカ（38～39 t）を産地へ購入要望している。 しかしながら、産地では種馬鈴薯生産者が年々減少するとともに、栽培面積も減少していること、近年の異常気象のため、収穫量の減少も発生しており、購入要望の7割～8割の按分出荷が続いている。 一部の生産者はすでに、北海道産キタアカリを夏まで保存し、秋作用の種馬鈴薯として使用しているもののキタアカリの規格は中玉から小玉傾向であり、大玉傾向の品種であるデジマ・ニシユタカに比べ大きさと、見劣りしてしまう状況。 しかしながらキタアカリはすでに高食味の馬鈴薯として知名度もあり着芋数も多く、秋作種馬鈴薯として出荷ができれば、直売所でデジマ・ニシユタカとの差別化や、収穫量も生産者にとってメリットとなる。 秋作用種馬鈴薯の供給不足を解消することと、特色のあるアイテムとしての秋作キタアカリの作型・栽培技術を検討していただき、体系化をお願いしたい。 ※2018年に秋作キタアカリの試験栽培をおこなったものの、肥大が進まずM・S規格傾向となった。 そのため、特に芋の肥大化を進める栽培技術の確立をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考 秋作用種馬鈴薯としてキタアカリを提供することが可能です。	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部 野菜作物研究課
対応区分	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名			
対応の内容等 ‘キタアカリ’は休眠が比較的浅いことから、県内でも自家採種いもによる秋作が行われていますが、降霜までの栽培可能な期間が短いため、イモ肥大が春作に劣ります。また、個数型で着いも数が多いため、管理不足ではイモ肥大は見込めません。ジャガイモ秋作については、大イモ生産のための栽植密度と茎数管理及び追肥の効果、かん水栽培や夏期貯蔵による出芽促進と栽培期間の確保、丸イモ利用による腐敗・欠株の抑制など、既に多くの知見がありますので、情報提供に努めます。			
解決予定年限	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			